令和7年度第1回焼津市青少年問題協議会 会議録

1 日 時 令和7年6月24日（火）午前10時～11時25分

2 会 場 焼津市役所1階大会議室1B

3 次 第

(1) 開会

(2) 委嘱状交付

(3) 会長あいさつ

(4) 副会長選出

(5) 会議録署名人指名

(6) 議事

①報告事項 令和6年度青少年健全育成の取組みについて

- ・焼津警察署管内の青少年の状況
- ・青少年健全育成の取組み
- ・街頭補導、教育相談の状況
- ・小中学校の状況
- ・高等学校の状況

②協議事項 令和7年度青少年健全育成の活動について

ア 青少年にとって安心・安全な環境づくり

- ・青少年健全育成の活動
- ・子ども見守り隊の活動

イ 情報モラルの指導・啓発

(7) その他

最近の交通事故などの状況について

(8) 閉会

4 出席者

会 長 中野弘道（市長）

委 員 （21人）

村松幸昌（市議会議長）、内田修司（市議会）、羽田明夫（教育長）、平井愛次（自治会連合会）、村上敏行（自治会連合会）、中野文子（民生委員児童委員協議会）、安藤妙子（社会福祉協議会）、大石壮吾（社会教育委員）、松山純一郎（青年会議所）、北上明宏（焼津地区保護司会）、沼里智彦（高等学校校長会）、新村弘道（校長会）、外山新也（静岡県立焼津青少年の家）、大石哲也（焼津公共職業安定所）、北畠正彦（PTA連絡協議会）、水戸瀬頼子（子ども会連合会）、檜木博之（静岡福祉大学）、青島利光（焼津ライオンズクラブ）、加藤浩良（焼津南ロータリークラブ）、小西雅紀（静岡県飲食生活衛生同業組合焼津支部）、小城茂子（焼津市ボーイスカウト・ガールスカウト協議会）

幹事（7人）

木内義雄（焼津警察署生活安全課長）、中野直幸（校長会）、岡村幸治（PTA連絡協議会）、高田信太郎（補導員幹事会）、小林敏之（スポーツ推進委員会）、福田陽子（教育部学校教育課長）、進藤敬（市民環境部くらし安全課長）

その他（報告者、1人）

横山公成（焼津警察署交通課長）

事務局（8人）

鈴木彰（教育委員会学校福祉部長）、荒井健（学校福祉部子ども支援課長）、鈴木宰民（学校福祉部子ども支援課主席指導主事）、河合玄哉（学校福祉部子ども支援課指導主事）、増田達一（青少年教育相談センター相談員）、下村千鶴子（子ども支援課児童生徒支援担当主幹兼青少年教育相談センター所長）、佐野裕美子（家庭支援課放課後支援担当主査兼青少年教育相談センター主査）、梅田凌佑（家庭支援課家庭支援担当主任主事兼青少年教育相談センター主任主事）

5 欠席者

委員（3人）

菊地邦宏（焼津警察署長）、寺田徹（校長会）、豊島恒之（焼津ロータリークラブ）

6 内容

【委嘱状交付】

委員及び幹事へ委嘱状及び辞令の交付を行った。

【会長あいさつ】

中野会長から開会あいさつを行った。

【副会長選出】

副会長の選任は互選の結果、は羽田明夫委員に決定した。

【会議録署名人】

大石哲也委員、新村弘道委員を指名

【議事】

報告事項

○中野弘道会長

報告事項「令和6年度青少年健全育成の取組みについて」を議題とします。焼津警察署管内の状況について木内幹事から御説明をお願いします。

(1) 焼津警察署管内の青少年の状況

○木内義雄幹事

私からは焼津市内の青少年の状況について、県下の状況と合わせて報告したいと思います。

令和6年中に県内で犯罪少年、触法少年として検挙、補導された少年の総数は721人で、令和5年と比較して31人減少しています。罪種別では万引きや自転車盗などの窃盗が315人と最も多く、続いて粗暴犯での検挙が120人となっています。身分別では高校生が215人と最も多く、続いて中学生が168人、有職少年が133人、小学生が91人、無職少年が74人、大学生26人、専門学校生が14人となっています。焼津市内の状況については、令和6年末までに22人の犯罪少年、触法少年を検挙補導し、令和5年と比較して9人減少となっています。罪種別では県下の状況と同じく万引きが10人と最も多く、続いて暴行・傷害での検挙が4人でした。次に身分別ですが、高校生が11人、続いて中学生が4人、小学生が2人、有職少年が4人、無職少年が1人でした。続いて補導の状況です。ここでいう補導は深夜徘徊、不良交友などこのまま放置すれば非行のほか健全育成上の支障が生じるおそれのある少年に対して指導したものになります。県内では、令和6年末までに5,802人を補導しており、令和5年と比較して2,970人減少しています。行為別では喫煙での補導が最も多く2,546人、続いて深夜徘徊2,144人でした。焼津市内では、令和6年末までに320人を補導しています。これは令和5年の同時期と比較して95人減少しています。行為別では深夜徘徊での補導が152人と最も多く、続いて喫煙での補導が145人となっています。

次に青少年を取り巻く環境の喫緊の課題としては、高額な報酬を受け取る代わりに、特殊詐欺や強盗などの罪を犯す闇バイトの増加が懸念され、その対策が重要になります。闇バイトは高額な金銭の報酬が受け取れるという誘い文句のもと、その募集に集まったものは、犯罪に加担させられるものの、報酬はもらえないのがほとんどです。つまり、ただ犯罪を行っただけであり、何のメリットもないのです。このような犯罪に関わると、たとえ未成年であっても共犯として警察に逮捕される可能性があります。知らなかった、バイトだと思ったでは済まされないのが現実です。だからこそ皆様には青少年たちに、おいしい話には必ず裏があることをご指導いただけたらと思います。今後もこうした闇バイトに関与しないことを青少年に訴えかける指導が必要であり、そのためには皆様方のご協力が必要となりますので、引き続きご協力をお願いしたいところであります。

さらにここ最近、私が生活安全課長に着任してから感じていることですが、高校生同士の不適切交際から発展したトラブルが非常に多いと感じています。特に裸の画像を撮られた等の相談が多く、この画像が SNS 等にアップされれば回収はほぼ不可能になり、一生インターネット空間に残ってしまいます。このような相談については、相談者に対しての防犯指導や相手に対しての警告や事件化などを実施しますが、本日ご出席の皆様におかれましても、特に注意してこのような危険性について青少年に指導してもらえたらと思います。

最後に、これから夏の暑い時期に入ってきます。青少年たちの心も開放的になってくる時期に危険は潜んでいます。悪い大人たちはその隙を狙っています。警察としましては、パトロールの強化、防犯活動等を行っていきますが、青少年が被害にあわない、又加害者にならないためには皆様方のご協力が必要不可欠となりますので、今後ともよろしくお願いいたします。以上で説明を終わります。

○中野弘道会長

続きまして、令和6年度青少年健全育成の取組み、街頭補導の実施状況、青少年教育相談活動の実績について事務局から説明をお願いします。

(2) 青少年健全育成の取組み

○下村千鶴子子ども支援課児童生徒支援担当主幹兼青少年教育相談センター所長

6月5日、第1回焼津市青少年問題協議会を開催しました。7月2日、焼津市青少年健全育成市民会議を開催し、事業計画等につきまして承認をいただきました。7月11日、焼津市子ども・若者支援地域協議会の代表者による会議を開催いたしました。7月には、国・県の青少年の非行・被害防止強調月間に合わせて、夏に青少年をまもり育てる運動の一環として、7月1日から31日の1か月間大井川庁舎において懸垂幕を掲揚しました。また、本庁舎2階のデジタルサイネージにおいて、強調月間の広報と青少年声掛け運動参加者の募集広告を放映しました。街頭キャンペーンについては、7月3日に市内3店舗にて啓発活動を予定しておりましたが、雨により中止いたしました。7月26日に県内一斉夏季少年補導を市内10地区で実施しました。また、併せて立入調査を実施いたしました。9月から2月にかけて、明るい街づくり推進事業として、市内13地区で、明るい街づくり市民大会が開催され、多くの市民の皆さまにご参加いただきました。

12月13日、県内一斉冬季少年補導を市内10地区で実施しました。また、併せて社会環境浄化活動として、実態調査を実施いたしました。2月10日、第2回焼津市青少年問題協議会を開催し、令和6年度の活動実績についてご協議いただくとともに、令和7年度の活動方針についてご協議をいただきました。2月17日、焼津市子ども・若者支援地域協議会の実務者による会議を開催し、情報交換をいたしました。また、通年活動として、街頭補導、青少年教育相談を実施しております。以上です。

(3) 街頭補導、教育相談の状況

○佐野裕美子家庭支援課家庭支援担当主査兼青少年教育相談センター主査

まず、街頭補導活動につきましては、①地区補導活動と②一斉補導活動を実施しています。地区補導活動では、自治会や子ども会、PTA、小中学校より推薦された118人の補導員が市内10地区に分かれ、小中学校周辺や公園、コンビニエンスストア、大型店舗等の巡回を実施しました。活動は、1班3～5人体制で、各地区月4回程度巡回をしております。時間帯は平日19時から21時までで、活動の内容は声掛けによる補導が中心であり、主に青少年への早期帰宅や無灯火自転車への指導を行いました。一斉補導活動は、県下一斉少年補導にあわせ、補導員・焼津警察署警察官・焼津警察署少年ボランティア連絡会・市職員が合同で、活動しました。夏と冬の2回、実施しました。

補導実績の表をご覧ください。令和6年度の補導実施回数は293回、参加者数は1,056人、補導人数・声掛け件数は588人でした。補導人数が588人のうち583人は、公園やコンビニエンスストア、ゲームセンター、大型店舗などで見かけた子ども達に対して、早く帰宅するように、気を付けてねといった温かい声掛けを行ったものです。補導人数の学識別内訳ですが、小学生が45人・中学生が100人・高校生が420人、その他の学生が7人、有職少年が9人、学識別不明の青少年が7人でした。地区別の内訳では、大井川地区が202人、全体の34.4%、焼津西地区で191人、全体の32.5%、豊田地区が103人、全体の17.5%と多くなっています。大井川地区はゲームセンターアッブルや清流館高校前のコンビニエンスストア、焼津西地区は大村公民館横のバスケットコート、豊田地区は清見田公園及び小屋敷公園での声掛けが多い状況ですが、いずれも非行や問題行動が多いというわけではありません。補導実績、青少年の状況につきましては、特に大きな問題もなく、大変良い傾向にあると考えられます。環境浄化活動につきましては、有害情報の氾濫や深夜営業の店など、青少年を取り巻く環境について、7月に店舗立入調査、12月に青少年を取り巻く社会環境の実態調査をしま

した。昨年12月の実態調査での各店舗数は資料のとおりです。これら店舗につきましても、街頭補導時に立ち寄り、見回りをするとともに、立入調査や環境実態調査の際に、店舗に対し、県青少年環境整備条例に基づく適正な陳列や販売についてお願いをし、青少年を取り巻く社会環境の醸成に努めているところです。以上です。

○増田達一青少年相談センター相談員

相談対応回数は382回でした。昨年度は310回でしたので、70回以上の増加となりましたが、特定の成人2名への対応が増加したことに加え、新規相談への対応回数も増加したことが主な要因だととらえます。相談方法では、電話による相談が86%、面接による相談は10%、メールによる相談が4%となっています。メールでの相談の割合は、近年少ない状態で推移していますが、新規の相談窓口となっており、令和6年度の対応回数は前年度より増加しました。問題別では、性格・情緒にかかるものが75%を占めていますが、このほとんどは前述の特定の成人の方々に関わるものです。不登校にかかる対応は20回で、前年度より3回の減少となりました。保護者の了解を得ることができた場合には、所属校や関係機関と連絡を取りながら対応にあたるようにしています。各学校や関係機関の対応は充実してきたと考えられますが、不登校の児童生徒数は増加傾向にあると推測され、今後も児童生徒の実態に応じた多層的な対応をさらに充実していくことが必要だと考えます。いじめにかかる相談は、ありませんでした。近年少ない状態で推移しており、各学校における取り組みが着実に進められている成果だと考えます。引き続き学校を始めとした関係機関と連携しながら対応していきます。3の相談者別の状況では、親御さんからの相談が増えています。近年は父親からの相談が増える傾向が続いています。4の相談対象者についてですが、どの年代も増加していますが、特に高校生にかかる相談は大きく増加しました。また、20歳を超えた成人の方についてのご家族からの相談もあります。ただ、対象者が成人であるため、家族への提案の内容や提案の仕方には難しさを感じています。5の相談者の実数については、お手元の資料をご覧ください。まとめです。相談のほとんどは電話と面接によるものです。メールでの相談も、電話や面接での相談も一長一短があります。電話や面接の場合、その時その場での瞬時の回答が必要であり、相談員の対応力の向上がさらに必要だと考えています。当センターへの相談により、問題や相談者の悩みがすぐに解決・解消される事例はほとんどないと言ってよいと思います。しかし、当センターが相談者を学校や関係機関につなぐことが、解決に向けて動く端緒となっているとも考えています。当センターが相談者の力となるためには、どこどのようにつなぐのかというコーディネート力をさらに向上させていくことが重要だと考えています。特に、18歳を超える対象者をどこの機関とつなぐべきかについては、さらに多くの情報を集めていかななくてはなりません。相談者や家族の努力を認め、悩みを共有しながら、重く沈んだ気持ちが少しでも楽になるよう引き続き懇ろな対応に努めていきたいと考えています。

○中野弘道会長

以上、事務局の説明が終わりました。引き続き小・中学校、高等学校の現状について、説明をお願いします。

(4) 小中学校の状況

○新村弘道委員

令和6年度市内13の小中学校について、生徒指導上の状況を問題行動、不登校、いじめの3点

についてお伝えします。1 問題行動です。昨年度の問題行動の件数は455件で、前年の235件と比べて220件増加しています。問題行動の内容で最も多いものは、その他粗暴行為、悪口を言う仲間外れにされる等で、128件報告されています。これは小学生が起こした問題行動全体の約3割を占めています。学年問わず、発達に特性を持ち、自己コントロールに困り感を抱えている児童が、友達とトラブルになる傾向が見られます。相手の気持ちを考えて行動できる力や、いやな思いをした時に一旦立ち止まり、冷静になって対応できる力を身につけるなど、良好な人間関係を築いていけるよう、学校では、その都度繰り返し指導を重ねています。自他をかけたえのない存在として、互いのよさや違いを認め合い、失敗や間違いを受け入れることができる人間関係づくりを大切にしています。また、静岡県教育委員会が出している、人間関係づくりプログラムを計画的に実施し、スキルを学んでいます。さらに、教師による毎日の声かけやあいさつ等の発達支持的生徒指導にも各校で意識的に取り組んでおります。授業放棄は62件で、前年の53件と比べて9件増加しています。これからの社会で生きていくのに必要な資質・能力を育むために、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に、各校で取り組んでいます。特に子どもたちから生じた疑問、子ども同士の思考のズレといったところを出発点として、授業の魅力を感じ、より主体的に学んでいく姿勢を大切にしています。その過程で、学習に集中できない児童には、教員が個別に声を掛けて対応したり、支援員が横について学習支援を行ったりする等、一人一人の心の安定が図れるよう対応しています。今後も、家庭と連携を図りながら、子どもたちの様子を的確に把握し、魅力ある授業づくりに努めていきます。

2 不登校です。昨年度、不登校による欠席が年間30日以上の子は196人で、前年度の205人と比べて9人減少しました。昨年度の196人の学年別内訳をみると、中学年、高学年で増加する傾向にあります。不登校児童の中では、自己肯定感が低い児童が多く、ゲームや SNS を夜遅くまでやり、生活が昼夜逆転をしているケースもみられます。学校では、家庭との連携、相談室の活用、心の教室相談員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携等、様々な方法で改善に努めています。さらに、令和5年より学校福祉部が教育委員会に設置されたことにより、家庭や子どもへのよりきめ細やかな支援が可能となり、よい方向に進んでいるケースが複数あります。保護者とも協力し、今後も組織的な対応を図っていきたくと考えます。

3 いじめです。昨年度のいじめ認知件数は211件です。その内、約6割の134件が解消または一定の解消となっています。法に基づいた対応が各校に浸透しており、いじめの定義に則った認知や早期の校内での情報共有、組織的な対応を実施しております。些細な行為が重大な事態に至ることがないように、今年度も、初期の段階のいじめも含めて積極的に認知し、児童に寄り添った対応を組織でしていきます。いじめの内容は、冷やかす・からかい・悪口が最も多く132件、ひどく叩かれる、蹴られるなどの暴力行為が71件、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりするが62件、になります。各校では、現状把握のためのアンケート調査を定期的に行うこと、児童や保護者が相談しやすい環境をつくること、一定の解消が見られた事案に対しても引き続き見守りを行うこと等、学校体制での対応を続けて参りたいと考えます。

以上、小学校の問題行動、不登校、いじめの3点について報告いたします。今後も家庭との連携を図り、児童理解を深めながら、組織的な生徒指導を推進してまいります。

○河合玄哉子ども支援課指導主事

令和6年度市内9校の中学校について、生徒指導上の状況をお伝えします。まず問題行動について、令和6年度の報告件数は540件で、前年度の389件と比べて151件増加しています。

主な問題行動の内容は、その他の粗暴行為、悪口を言う、仲間外れにされる等が令和5年は63件から令和6年は175件、生徒間暴力は93件から92件、携帯電話等の誹謗・中傷、ネットトラブル38件から45件、器物破損25件から45件、授業放棄11件から37件でした。自傷行為等の42件から36件については、令和5年度より減少してはいるものの、以前と比較すると大きく増加しており、インターネット等の普及により自傷行為等の情報が得やすくなり、自傷行為等に対する生徒のハードルが下がっていることが考えられます。心の教室相談員やスクールカウンセラー、医療機関と連携し、専門機関の支援を受けられるように各校対応をしております。家庭とも協力するとともに、外部の専門機関とも連携を密にして対応していきます。問題行動の改善に対しては、本人への指導に加え、保護者と連携し共通理解を得ながら、同一歩調で指導をすすめています。しかし、様々な要因が複雑に絡み合っているケースもあり、学校だけでは解決することが難しいため、各校では、教育委員会学校福祉部、焼津警察署生活安全課や警察署スクールサポーター、こども相談課、中央児童相談所などの外部機関と連携をとりながら、長期的な視点をもって改善に向けて指導にあたっています。また、未然防止に向けての取組にも力を入れています。問題行動が起こりにくい環境づくりのため、学校生活の様々な場面で生徒主体の活動を意図的に設定したり、生徒が互いに支え合うピアサポーター、異学年の交流活動等を取り入れたりして、個々の自己有用感を高めるなど、学校における生徒たちの絆づくりや居心地の良い学校づくりに積極的に取り組んでいます。

次に不登校について報告します。令和6年度、不登校による欠席が年間30日以上の子生徒は301人で、前年度の251人と比べて50人増加しており、ここ数年不登校生徒の人数は増え続けています。学年別では、1年生が94人、2年生が102人、3年生が105人と、どの学年にも約100人の不登校生徒が存在します。本人に係る不登校の理由として、不安が最も多く、無気力や人間関係なども原因として大きな割合を占めています。不登校生徒に対して、各校では未然防止と早期対応に積極的に取り組んでいます。具体的には、家庭との連絡を密にして連携を図りながら、電話連絡や家庭訪問を定期的に行っています。また、個々の状況に応じて保健室や相談室の活用、心の教室相談員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携、さらには、外部機関のチャレンジ教室やこども相談課、医療機関などとも広く連携し、ケース会議等を継続的に行いながら改善に努めております。その結果登校できるようになった生徒もいますが、総数として減少につながっていないのが現状です。誰一人取り残されない学びの保障の実現に向けて、学校内外の専門機関による支援が受けられない生徒がないように、学校と学校福祉部が連携しながら、生徒の支援を行ってまいります。

次にいじめについてです。令和6年度はいじめ認知件数は255件で、前年度の159件から96件増加しました。各校では、未然防止や早期対応に力を入れています。道徳や学級活動の時間はもちろん、学校のすべての教育活動を通して、人権意識を高めるなどの未然防止の取組、発見後の組織的で丁寧な指導による再発防止の取組にも力を注いでいます。また、いじめの発見が遅れると深刻な問題につながるため、各校では早期発見にも努め、解消につなげるように対応しています。いじめの具体的内容としては、冷やかし・からかい・悪口が約半数を占めています。その他、叩かれる、蹴られるなどの暴力行為、パソコンや携帯による誹謗・中傷、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりするなどが主な内容です。いじめを認知した際には、校内いじめ問題対策委員会を中心に組織的に対応し、生徒の支援や調査を実施しています。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、その他関係機関の専門家と積極的に連携し、再発防止に努めています。中でも、ネット問題は表面上にはなかなか出てきにくい事象です。問題が起きた際に各校では、該当生徒に指導やケアを行って

いますが、多くの生徒に情報が流れたり、閲覧できる状態になっていたりすることがあり、対応に苦慮することがあります。未然防止に向け、ネットパトロールの活用や情報モラル教育の実施、啓発講座の開催等により対応を強化していますが、学校だけでなく社会全体の取組も重要になってきていることを感じています。

焼津市の子どもたちが、優しく、強く、愛しい人に成長するために、失敗や間違いを恐れない子、疑問を言える子を重点に置き、子どもたちやご家庭に寄り添った支援を継続していきたいと思います。以上で、中学生の状況についての報告を終わります。

(5) 高等学校の取組みについて

○沼里智彦委員

地区内の高校の状況について報告します。まず一般非行についてです。地域における非行の内容としては、喫煙、飲酒等の法に抵触する行為は減少傾向にあります。一方、闇バイトなど社会問題となっている重大事案については、現時点で報告はないですが、危機感をもって指導にあたる必要性を強く感じています。また、自転車による交通違反、スマホを使いながらや、一時停止無視、並走などの件数が減少しておらず、交通ルールの遵守、マナー指導は強く行っているが課題を感じています。(2)の いじめですけれども、先ほど小中学校からいじめの件数が増加しているとのことですが、高校においてもからかいやいじりなどの事案は日常的に見られております。各校ではアンケート調査を行い、本校でも年に2回アンケート調査を行い、早期発見・早期対応に努めています。生徒の様子を見ていますとやはり対人関係において他者との距離の取り方が苦手というか不適切という生徒が多く、そういったところからトラブルが多く発生しておりますので、コミュニケーションスキルの向上をしっかりとさせるような指導をしております。(3)不登校についてですが、中学校時代に不登校等を経験した生徒が校種や学力層に関係なく、高校に多く入学しております。近年は中学卒業時に全日制でなく、通信制の高校を主体的に選択する生徒も増加している傾向がございます。全日制の高校の場合には出席日数において進級を認定しなければいけないのですが、どうしても不適用や出席日数が不足してしまって、進級が難しくなった場合には、通信制の高校等に転学するケースが多くなっております。通信制はかなり学校数も増えておまして、多くの生徒に次のそういった学びの場に繋いであげるといふ指導もしております。また起立性障害や学習障害、不安症や適応障害など心の悩みを抱える生徒については、やはり特別な支援が必要となっております。学校にもスクールカウンセラー等おりますが積極的に外部の専門的な機関等と連携しながら対応しているケースが増えております。2番目に健全育成の取組とありますが、まずはSNS上のトラブル、これは小中学校と合わせて高校でも一番問題となっております。高校については、ほぼ100%の生徒がSNSを持っています。日常的に使う中でやはり規範意識の向上、これが一番の課題でありまして、プライバシーの保護や人権意識が希薄な場合、盗撮ですとか不適切画像を拡散する、もしくは闇バイト等の重大犯罪に巻き込まれるケースも懸念されておりますので、保護者、家庭との連携を強化しながら使い方もしくは一定のルールについて粘り強い指導をしております。相談体制、支援体制ということにつきましては、先ほどもあった通りいろいろな悩みを抱えている生徒が多いので、各学校では養護教諭、特別支援コーディネーター等の教員をしっかりと組織的に配置し支援体制を整えておりますが、年々特別な支援が必要な生徒が増えておりますので、教員だけではなかなか対応しきれないレベルも増えており、外部機関との連携を積極的に行っております。全般的に生徒指導に関しましては、令和4年度12月に文科省が示している生徒指導提要在改定されております。発達段階に応じて悩みや困難を抱える生

徒に対して、適切な支援ができるよう教員の意識改革、人権意識の向上にも引き続き取り組んでおります。高校に関して報告は以上になります。

○中野弘道会長

これまでの報告等に関して、御意見、御質問等がありましたらお願いします。

【質疑】

○（意見等なし）

○中野会長

それでは、報告事項「令和6年度青少年健全育成の取組みについて」は、御承認いただくことでよろしいでしょうか。拍手にて確認したいと思います。

（各委員拍手）

○中野弘道会長

ありがとうございました。報告事項については、御承認いただきましたので以上で終了致します。

次に協議事項「令和7年度青少年健全育成の活動について」を議題としたします。青少年にとって安心・安全な環境づくり、情報モラルの指導・啓発について事務局から説明をお願いします。

協議事項

令和7年度青少年健全育成の活動について

(1) 青少年にとって安心・安全な環境づくり

○下村千鶴子ども支援課児童生徒支援担当主幹兼青少年教育相談センター所長

青少年にとって安心・安全な環境づくりのうち、青少年健全育成に係る各種会議の開催や補導活動についてご説明いたします。はじめに各種会議の開催ですが、青少年問題協議会は本日と来年2月13日に第2回目を予定としています。次に青少年の健全育成に関する地域活動等を推進している「焼津市青少年健全育成市民会議」はスマイルライフ推進課の主催にて7月4日に開催し、今年度の事業計画等を決定いたします。

7月7日には、社会生活を営む上での困難を有する子ども・若者に対する支援を実施するために「焼津市子ども・若者支援地域協議会」の代表者会議を開催し、関係機関との情報交換や連携を図ってまいります。

また、7月は、国・県の「青少年の非行・被害防止強調月間」に合わせて、「夏に青少年をまもり育てる運動」の一環として、7月1日から7月31日の期間で大井川庁舎での懸垂幕の掲揚と本庁舎1階と2階の情報表示モニター、デジタルサイネージを使用して情報発信を実施する予定です。街頭キャンペーンについては、皆様と警察署の皆様の協力により7月8日に実施を予定しておりますが、キャンペーン予定日まで、日があまりないことから本日のご協議に先んじて、実施の通知を送らせていただきましたことにつきまして、ご理解くださいようお願い申し上げます。また、県下一斉の夏季少年補導を7月18日、冬季少年補導を12月19日のいずれも金曜日、午後7時から9時までの間で予定しています。9月から11月

にかけては、市内13地区で、「明るい街づくり推進事業」の実施を予定しています。2月19日には、「焼津市子ども・若者支援地域協議会」の実務者会議を開催し、実務者レベルでの情報交換や連携を図ってまいります。そのほか、通年の活動として、街頭補導活動を引き続き実施してまいります。街頭補導は、青少年の健やかな成長を支援する活動として、声掛けを中心に各地区で行います。以上です。

○河合玄哉子ども支援課指導主事

子ども見守り隊の活動について説明させていただきます。

焼津市では、登下校時の巡回・警備等に従事する学校安全ボランティアのことを、子ども見守り隊と呼んでおります。資料の13ページに小学校区の、14ページに中学校区の、本年度の見守り隊の活動予定がありますのでご覧ください。各校区の見守り隊は、地域の実態に応じてそれぞれの活動を行っていますが、いずれもボランティアとしてお力をお借りしております。活動内容につきましては、各校ごとに、学校と見守り隊の方々との情報交換を実施し、より現状に適した活動になるよう改善が行われております。例えば、交通事情等の変化に伴う危険箇所への対応、学校やPTA、地域の方々の連携体制の見直し等です。

不審者への対応につきましても子ども見守り隊、教職員、警察、地域安全推進委員会の方々の下校時の巡回等が抑止力となっております。多くの大人が子供たちのためにご尽力いただいていることに感謝いたします。学校から教育委員会に報告のあった不審者情報は、令和3年度は16件、令和4年度は15件、令和5年度は16件、令和6年度は13件でした。以前は、季節に関係なく1年間通して月に1、2件程度の報告でありましたが、令和4年度からは冬の時期の報告が多くなりました。発生状況の特徴として、小学生に対する不審者情報が8件、中学生に対する不審者情報が5件でした。令和5年度は、1人有的时候きに声をかけられているのが12件でしたが、令和6年度は、人数に関係なく、不審者に遭遇しています。登下校時はできるだけ複数で行動することを指導するとともに、危険予知や自己防衛の方法について、いかのおすしを合言葉に、これからも継続して指導をしてまいります。

今後も、教育委員会では、多くの人の目が行き届くことが、子どもたちを巻き込む犯罪や事故の防止につながるという考え方に基づいて、引き続き、子ども見守り隊をはじめ、地域ぐるみの学校安全体制の整備に努めてまいります。

(2) 情報モラルの指導・啓発

引き続き小・中学校における情報モラルの指導・啓発について説明します。教育委員会では、情報モラルに関する指導について、生徒指導の重点的な取組の一つと考え、市内のすべての小・中学校で実施しております。また、平成27年度から、焼津市いじめ防止対策事業として、専門家によるネットパトロールと情報モラル講座を実施しています。ネットパトロールにより、早期発見ができ、すばやい対応を図るとともに、情報モラル講座で正しい知識を身につけることで未然防止を図っていきたいと考えています。ネットパトロールの昨年度の実績としましては、約850件の報告を受け、各校での指導に活用しました。本年度につきましても、4月からネットパトロールを実施しております。また、情報モラル講座においては、昨年度は中学校区ごとに開催し、児童生徒・保護者が受講しました。資料10に昨年度の実施状況を掲載しています。本年度も実施を予定しており、現在中学校区ごと計画中です。

また、令和3年度より継続して取り組んでいる試みとして、保護者を対象とした10分程度の情報モラル啓発動画を年間3本作成し、一般公開ではありませんが、ユーチューブで視聴

してもらったり、各校で面談の合間に保護者に見せたりして、啓発を行っています。昨年度の3本の動画視聴回数は2,609回、1本目1,357回、2本目706回、3本目546回でした。今年度も実施に向けて現在準備を進めています。今後も教育委員会では、情報モラルに関する指導について、継続して取り組んでいきます。

○中野弘道会長

事務局からの説明が終わりました。「令和7年度青少年健全育成の活動について」御意見、御質問等がありましたらお願いします。

【質疑】

○（意見等なし）

○中野弘道会長

協議事項、令和7年度青少年健全育成の活動については、原案のとおりお認めいただくことでよろしいでしょうか。拍手にて確認したいと思います。

○（各委員拍手）

○中野弘道会長

今年度はこのような内容で事業を行って参りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【その他】

○中野弘道会長

次に、その他としまして、「最近の交通事故などの状況について」焼津警察署横山公成交通課長から御報告をお願いします。

最近の交通事故などの状況について

○横山公成焼津警察署交通課長

本日は、貴重なお時間をいただき短い時間とはなりますが、焼津市内の交通事故発生状況について報告をさせていただきます。まず令和7年1月1日から5月末までの焼津市内における事故発生状況について説明します。まず人身事故件数です。人身事故は怪我のある事故になります。人身事故件数は266件昨年比マイナス41件、負傷者数318件マイナス67件、死亡事故につきましては現在まで発生しておりません。2年連続で交通事故は減少傾向となっています。

今回は青少年問題協議会ということで、学生の特に自転車事故を中心に話を進めさせていただきます。そして交通事故の場合は数字だけの話をしてもなかなか想像できないと思いますので、今回は実際に焼津市内で起きた学生さんによる交通事故の映像を見ていただき、交通事故の恐ろしさを身近に感じていただきたいと思います。個人の特定はできないものになっていますが、この映像が流出しますと諸問題が発生しますので、どうか内容は皆さんの記憶にとどめていただいて、撮影や録画は控えていただきたいと思います。

・左折巻き込み事故の映像

車の過失、責任が重い事故になりますが、自転車も車両ですから横断するときは周囲の交通

事情、後方からも車がくるかもしれないので車両の動きにも注意してほしかった事故になります。

・自転車の一時停止無視の事故の映像

自転車も車両ですので、自転車の過失の割合が高いと判断されれば、裁判等になれば本人及び保護者の責任が厳しく追及されることもありますので、自転車も車と一緒に交通法規を遵守することが必要となります。学生に話を聞いたところ一旦停止したとおっしゃっていましたが、映像を見れば止まっていなかったことが明らかとなった事故になります。

・車と自転車の事故の映像

車の左側に建物があり、自転車が近づいていることに気づかなかったかもしれませんが、車と自転車の双方の運転手は見通しが悪いところは徐行する義務があります。不幸中の幸いで自転車の方は年齢が若く体も丈夫であったためこれだけ強い衝撃を受けた事故ですが、けがは1週間程度で済みました。事故が発生しないのが一番ですが、自転車の方がヘルメットを着用していればもっとけがを軽減できた事故となります。そして衝突した映像が一瞬であったため気付かなかったかもしれませんが、自転車の方はスマホを見ながらの運転でした。これだけ強い衝撃を受け最後はボンネットの上に乗っていますがスマホは落としていません。スマホも大切ですが自分の命を守ることに重きを置いてほしかったと思います。

次に子どもの交通事故の映像を見ていただきます。今から見ていただく映像は焼津市内の映像ではありませんが私の取り扱った事故でも特に印象的でありますのでご紹介します。

・車の信号無視による事故の映像

この事故のお子さんは不幸中の幸いにも亡くなることなく長い治療とリハビリで普通の生活が送れています。事故の原因は車の運転手による信号無視です。スマートフォンで会社の同僚との会話に夢中になり信号を見落としてしまったことによるものです。信号を渡ろうとした女の子は家からお父さんの会社に忘れ物を届けるために青信号を手を挙げて渡りました。しかし車の運転手の交通違反によりなんら落ち度のない小さな子の命を奪おうとした重大な犯罪です。ハンドルを握っている方は常に誰かの命を握っていることを意識していただきたいと思います。最後に、焼津警察署で取り組んでいる、交通安全教育の一環として本年から参加している、ひまわりの絆プロジェクトという企画についてお話し終わりにしたいと思います。このプロジェクトは京都府警から始まったプロジェクトになります。平成23年に京都府内で発生した事故で4歳の男の子が亡くなりました。生前男の子は幼稚園で育てていたひまわりの種を自宅に持ち帰っていました。両親は男の子が生きていた証としてひまわりを大切に育てていました。平成25年春、この交通事故を担当していた警察官が自宅を訪問した時にご両親から私たちの子どもが生きていた証を残したい。このひまわりがあちらこちらで咲けばこの子も色んなところへ行けると思う。もう交通事故は嫌ですと、そのひまわりの種を託されたのです。こうして男の子が生きていた証を残したいと願うご両親の思いと交通事故根絶の強い願いがひまわりの種となって引き継がれ、平成27年夏には京都府内の警察署、幼稚園、保育園、小中学校、自動車学校、各地域等でひまわりの絆プロジェクトとして花を咲かせ平成28年以降は京都府内だけではなく全国各地で大輪の花を咲かせました。毎年多くの方々によりひまわりを育てることを通じて命の大切さを学び被害者支援への理解を深める取り組みとなっています。これがひまわりの絆プロジェクトの企画です。この活動に感銘を受け私たち焼津警察署でも京都府警からひまわりの種をもらってきました。5月9日に小川幼稚園の園児一人一人に警察署の花壇に種をまいてもらいました。蒔いていただいた種はぐんぐん成長しています。私たちは交通事故で亡くなった男の子への思いが途切れることのないよう毎日署員が交代で水遣りを行っています。そしてきっと夏には大輪の花を咲かせ、年末にはたくさん種が取れると思います。ぜひ種が無事に取れた際には、京都で亡くなった4歳の男の子が

いろいろな場所に遊びに行けるよう、もしこの中のどなたかが免許更新などで焼津警察署にお立ち寄りの際は私や交通課員だれでもいいので声をかけていただき、種を受け取っていただいて、どこか一粒でもいいので自宅や会社、その他どこか空いている土地があればそちらに植えていただきたいと思います。以上で交通安全の話は終わります。

今後も焼津警察署としましては引き続き強力な指導、取り締まりと合わせまして皆様と一緒に取り組む活動を推進して、この焼津市が真に安心して住みやすい街になるよう邁進していく覚悟でありますのでよろしくお願いいたします。

○中野会長

以上、報告が終わりました。質問等がありましたらお願いします。

【質疑】

○中野文子委員

教育委員会のほうで SNS の問題があるということでモラル教育を保護者も含めていろいろしてくださって近年の傾向としてありがたいと思っているのですが、交通安全のほうについても命を守るという意味で今までのやり方プラス今時のことを考えていかないと本当に大変だろうなと思うんです。

その理由はなぜかというところまず子どもたちの自転車に乗る機会が少なくなってきて非常に未熟な乗り手が多い。そして高校になると自転車で通う生徒が多くなる関係で高校生の規則の指導やルールの確認が必要になってくると思います。なぜそんなことを言うかということ民生委員児童委員の立場で言うとお年寄りが歩道を歩いているのにその隣を速い速度の自転車がスーッと通っていく、そしてうっとびっくりしてしまうということが間々聞くんですね。それって本当のルールからいくと、歩道を走ってはいけませんよね、許可がないところは、こんなところで聞いてすみません。

○横山公成焼津警察署交通課長

標識が歩行者と自転車が通れると指定されているところは通れるのですが、基本的にはその場所でも歩行者が優先になるので、子ども高齢者がいる場合は最大限の注意をして走らなければならないと決まっています。なので、あっています。

○中野文子委員

そういうことを私は習っているのですが、今の子どもたちはそういうことを全然知らないです。実際に焼津市はそういう走っていい歩道がないので、静岡だと分けてあったりしますが。子どもたちは車道を走るのが大変なので歩道を平気で走ります。

そして歩行者のことを意識せずに走っているのが現状なので、そういう勉強を学校は忙しくて大変なのはわかるけど SNS と同じようにやっていかないと、これからそういう自転車による、もともと増えていますが、自転車による、それが原因による事故が増えていくんじゃないかなと。それからさっきの左折巻き込みの事故もあれも自転車は右側通行してたんですね、あれも問題なんですよ、でもしょっちゅうありますよね、あれが。運転している立場から言うと気を付けて運転していても事故に巻き込まれてしまう。ということを感じるのでね、小中学生の自転車の教育、交通安全の教育はもちろんなんですけど、ぜひ高校になって自転車通学の増えていくその世代の、もっとという教育委員会がモラル教育を保

護者にも向けてしているのと同じように、私たち世代にもそういうことをしていかないと世の中変わっていかないんじゃないかと常に感じています。

○横山公成焼津警察署交通課長

小学生中学生を中心に焼津地区の安協さんといわれる指導員さんの方々などが、リーダーと語る会等々いろいろやっていただいて、小中学生の交通ルールとマナーは向上しているかなと肌感では感じていますが、おっしゃる通り高校生の事故というのは非常に増えていまして、毎朝のように8時から8時半の間には交通課員はびくびくしている状態です。だいたい事故が入ると自転車と車ということで今日も早速入っています。一昨日も入っています。その関係でももちろん学校名は言えないんですけども、あまりにも高校生、基本的にはどうしても車の過失ほうがあるとはなってしまうんですけども、自転車の一時停止無視の事故が多すぎて、私のほうにはすべての事故が集約して情報としてきますので、係員にその学校に早速一昨日なんですが行ってもらいました。そして教頭先生にあってお宅の学校の学生さんが今日交通事故にあいましたがご存じですかという話をしてもらいました。そうしたら把握はしていたんですが、非難するわけではないですが、先生達ちょっとまだ他人事なのかなと。知ってはいますよと、今日は休みになっていますね、また全校集会があったら言っときますとのだけの返答でちょっと悲しかったなあと、実際こういうことがありまして、ただ言い続けることは大切ですので、私の把握した高校生の事故はこういう会議の場だけではなく、タイムリーに発生したらすぐその学校に行って校長先生を中心に、ベテランの係員に行ってもらって事故状況を説明して、学校全体で情報を共有してくださいと。おそらくそういった事故があっても、クラスのみんなどは知っているかもしれませんが、学校全体に伝わるまで学年末や夏休み前などにこういう事故があったので注意しましょうということで、おそらくタイムリーに伝わるということがないと昨年からずっと感じていましたので、今年私2年目になるんですけども、高校生の事故についてはタイムリーに対応したいと思っております。

○中野文子委員

ぜひ講座もやってください。子ども相手の。

○横山公成焼津警察署交通課長

はい。

○中野弘道会長

貴重な意見をありがとうございました。高校小中学校と交通安全に対していろいろな形でご尽力していただいておりますが、さらなる強化をお願いしたいという意見だと思っておりますのでよろしくお願いします。

ほかにはいかがでしょうか。

(意見等なし)

○中野会長

それでは、以上で議事全てが終了いたしました。長時間の御協議、ありがとうございました。

【閉会】

以上のとおり、令和7年度第1回青少年問題協議会会議の議事経過及びその結果を明確にするために、この会議録を作成し、議長及び出席者2名が署名する。

令和7年 月 日

議 長 _____ (印)

会議録署名人 _____ (印)

会議録署名人 _____ (印)